

「みどりのカーテン」取り組み内容 in 富士見市

庁舎南側（平成 21 年）



庁舎中庭（平成 21 年）



庁舎南側（平成 20 年）



市民まつり（平成 20 年）



1. 概要

市庁舎南側から入る太陽光を遮り、室内の温度上昇を防ぐことを目的として、本市では平成 20 年 4 月より壁面緑化事業を実施した。庁舎南側のおよそ半分をカバーする幅 16 メートルのネットを設置し、ゴーヤ、ヘチマ、アサガオの 3 種類の植物のつるを絡ませて、緑のカーテンをつくった。ネットを設置するためのボルトの施工や、プランターに入れる土の手配については、専門的な技術や知識を必要とするために業者に依頼して行ったが、その他のネットの設置や苗の植え付け、毎日の水やりや収穫物の管理などは職員が自ら行い、事業の実施に要する費用を最小限に抑えた。平成 21 年度は壁面緑化による更なる効果を期待して、実施範囲を 1 年前のほぼ 4 倍の 61.2 メートルにまで拡大し、苗の植え場所をプランターから一部地植えに変更した（地植えの方が苗がよく育つため）。

2. 植物の育成経過

関係各課との調整や準備に時間を要したこともあり、平成 20 年度は苗をプランターに植えたのが 5 月末になってしまい、後の成長が危惧された。しかし、つるは梅雨の季節を迎えて順

調に伸びだし、6月中旬には1メートル、下旬には2メートルに達した。その後もつるは伸び続け、7月末の時点でヘチマは市庁舎屋上部分（9メートル）に達し、ゴーヤもおよそ5メートルまで成長した。他のつるが後に続くことにより、徐々に隙間が無くなり、密度の高い緑のカーテンが出来上がった。平成21年度についても時期的に大きな変動は無く、順調に育っている。

3. 温度測定結果

平成20年8月末から9月末にかけて、壁面緑化実施中の市庁舎各所に温度計を設置し、緑のカーテンの効果を検証した。強い日射の当たる市庁舎南側のうち、壁面緑化を実施している庁舎内の温度は、緑化を実施していない庁舎内の温度に比べて、平均2度低いことが分かった。

4. 市民への普及方法

平成20年度は報道機関に情報提供を行い、朝日新聞の地方面に記事が掲載された。実った収穫物は食わずに種を採り、袋に詰めて10月末に行われた市民まつりで配布した（1袋あたり8粒封入、約1000袋）。種のほかにもヘチマの果実から「たわし」を作り、啓発を目的として配布した。平成21年度は市広報に壁面緑化の写真を掲載し、各家庭での実施を呼びかけた。市民まつりでの種配りも実施する予定である。

5. 感想

今後も効果的な緑のカーテンを作り、市の地球温暖化対策を推進するとともに、市民に向けた啓発活動を積極的に行っていききたい。